

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	聴覚障害教育総論					授業形態	講義		
科目コード	750146	単位数	1単位	配当学年	2年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	本田 和也								
授業概要	<p>本授業の目的は、特別支援教育の中でも、特に聴覚障害教育に携わる教員に求められる専門性を養うことである。          特別支援学校（聴覚障害）での指導経験を活かし、本授業では、聴覚障害の概要についての理解を図った上で、様々なコミュニケーション手段を用いた日本語獲得についての理解を深める。しかし、「聴覚障害児にとって日本語獲得は永遠の課題である」といわれるように、日本語獲得の難しさや「9歳の壁」といわれる学業の難しさについての理解も図る。          また、心理・社会性への影響などの聴覚障害児の特性を「障害認識」を通して考える。</p>								
関連する科目	履修前に「特別支援教育総論」を履修しておくことが望ましい。								
授業の進め方 と方法	基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開する。 また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図る。								
授業計画 【第1回】	聴覚障害教育の歴史								
授業計画 【第2回】	聞こえとその障害								
授業計画 【第3回】	聴力検査								
授業計画 【第4回】	聴覚活用-補聴器と人工内耳-								
授業計画 【第5回】	コミュニケーション-聴覚口話法と手話-								
授業計画 【第6回】	言語発達の水準と指導								
授業計画 【第7回】	日本語獲得								
授業計画 【第8回】	障害認識								
授業計画 【第9回】									
授業計画 【第10回】									
授業計画 【第11回】									

授業計画 【第12回】	
授業計画 【第13回】	
授業計画 【第14回】	
授業計画 【第15回】	
授業の到達目標	<p>(1) 聴覚障害の心理・生理・病的側面に関する基本的な事項を説明することができる。</p> <p>(2) 聴覚障害児の様々なコミュニケーションについて理解することができる。</p> <p>(3) 聴覚障害児の言語発達とその支援について理解することができる。</p> <p>(4) 聴覚障害が子どもに及ぼす学習上・社会生活上・心理上への影響を理解することができる</p>
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	授業の中で、次回の授業内容・課題などを提示するので、各自で確認したり、調べたりしておく（1時間程度）
授業時間外の学修 【復習】	テキストや配布したプリント等を基に、習得した内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等でさらに深めたりしておく（1時間程度）
課題に対する フィードバック	毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説を行う。
評価方法・基準	通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容（20%）、及び最終試験（80%）で総合的に評価する。
テキスト	文部科学省編『特別支援学校居宅要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂（159円＋税） なお、必要に応じてプリントを配布する
参考書	我妻敏博著（2011）『改訂版聴覚障害児の言語指導-実践のための基礎知識-』田研出版（2,600円＋税） 脇中紀余子著（2013）『「9歳の壁」を超えるために-生活言語から学習言語への移行を考える-』北大路書房（1,800円＋税） 川崎佳子著（2004）『きこえない子の心・ことば・家族-聴覚障害者カウンセリングの現場から-』明石書店（1,200円＋税）
備考	13年間、特別支援学校（聴覚障害）において、乳幼児教育相談（0～2歳児）担当として8年間、幼稚部担任として4年間、小学部担任として1年間勤務してきた。